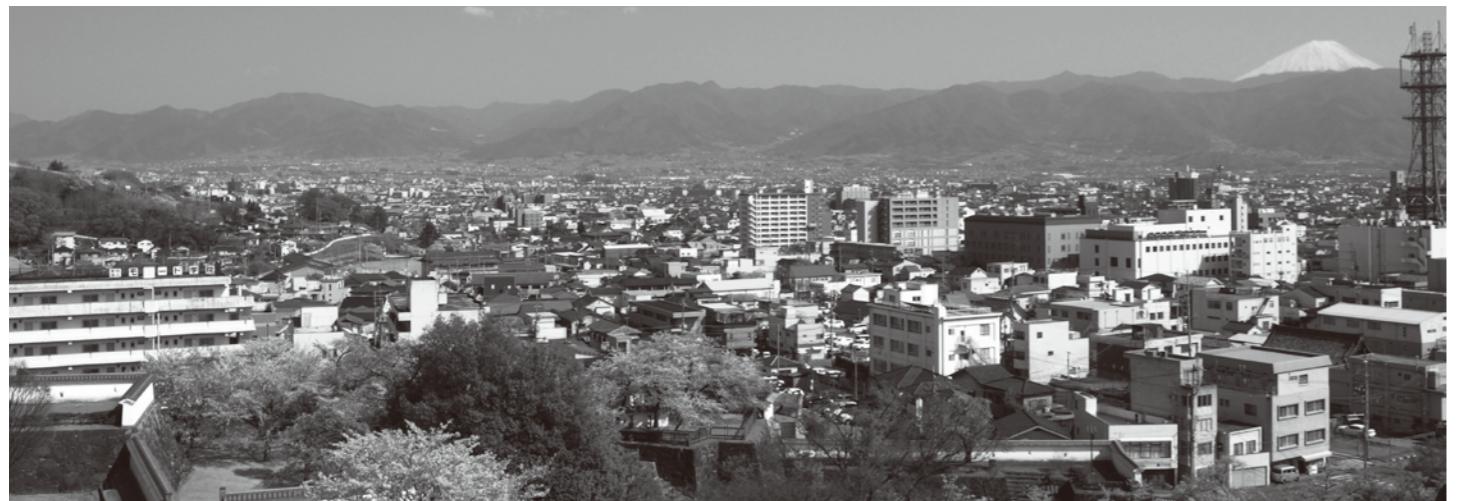




## 協同組合山梨県柔道整復師会 理事長 大澤 正英

わが国は、高齢化社会ですので、医療・福祉・介護は重要で、特に連携が大事であると思っています。現在、山梨県の人口は818,455人で、かなり人口減少社会になると予想します。一方で高齢化率は伸びており、65歳以上の人口は約28%です。高齢者には元気な方とケアが必要な方がいます。社会保障は当然ケアが含まれ、年金についてはすべてが対象です。日本の社会保障制度を考えると、やはり担い手である現役世代、生産年齢人口が市町村をしっかり支えていく体制をつくることが重要です。そういう意味では山梨県は社会保障制度のみならず市町村が持続発展していくために、また高齢者の方々を支えていくためには生産年齢者が働ける場所を増やし若い世代の方々が山梨県に移住して来て頂くことが大事だと思います。県の魅力をしっかり高めて、行政による県民サービスをもっと高めていくことが大切です。担い手であるヘルパーさんや看護師さん、そういう方々も大事ですけれども、温かく支え合っていくまちを創っていくことが大切です。近年高齢者の介護支援が一番必要になっているのは認知症です。

日本では認知症の前段階、軽度認知障害(MCI)のある人は約400万人と推定されています。強めの筋力トレーニングにより、MCIのある人の認知機能を改善することがわかつてきました。我々、柔道整復師が機能訓練指導員としてもっと県民のために活動していくべきだと考えています。日本の社会保障制度は、世界的にみれば国民皆保険制度という制度そのものは、他の国の事例を見ても、日本の伝統ある良い制度であると思っています。これをしっかり維持していかなければなりません。とはいって、どんどん若い方達の負担は増えて、課題は国内に山積しており、やはり現役世代が重要ですので少子化に歯止めをどこまでかけられるかというのは大きな課題です。安心して産んで育てられることと社会保障制度は一体だと考えます。協同組合も団体として優しいまちづくりの為に貢献していきます。



## 編集後記

今年は、西日本豪雨や北海道胆振東部地震などの自然災害によって多くの人が被災にあわれました。特に西日本豪雨では防災情報の伝達方法等の遅れが避難行動に結び付きました。今後効果的な避難等も検討されているものの今一度ひとりひとりの防災意識の向かい合い方が必要と思われます。山梨県も例外ではなく県内最大級の台風24号により停電は一時23市町村にまで広がり、住民が不自由な生活を強いられました。毎年山梨県でも市町村で防災訓練等が行われております、皆様も参加いたしましょう!

2018年の世相を1文字で表す今年の漢字が「災」に選ばされました。

来年の漢字はいい1文字でありますように!!

副会長 井出 正治

発 行	公益社団法人山梨県柔道整復師会
発行責任者	大室 正美
編集責任者	渡辺直也
甲府市中央4丁目12-21	
連絡先	TEL 055-232-5487 FAX 055-232-5482 <a href="http://www4.ocn.ne.jp/~yamanasi/top-index.html">http://www4.ocn.ne.jp/~yamanasi/top-index.html</a>



平成30年12月  
公益社団法人  
山梨県柔道整復師会

## 平成30年度山梨県地震防災訓練

平成30年11月11日(日)午前9時より、富士吉田市下吉田第二小学校をメイン会場に、駿河湾から三重県南東沖にかけての領域を震源とする「南海トラフ地震」を想定した地震防災訓練が行われました。訓練では、6月の大坂北部地震を踏まえた倒壊したブロック塀等からの救出・救助訓練などを実施したほか、地域での活躍が期待される高校生の皆さんも、災害発生時の外国人の方々への通訳や、住民の救出・救助訓練に参加。本会は、トリアージ・医療救護所訓練に参加。トリアージにより振り分けられた外傷者の処置にあたりました。

訓練後の講評にて、後藤斎山梨県知事より、行政による「公助」だけでなく、県民一人ひとりの「自助」や、地域ぐるみの「共助」の取り組みの相互連携の重要性に触れ、「本日参加された皆様には、今回の訓練結果も踏まえながら、更なる防災体制の充実や、地域防災力の強化に引き続きご協力を賜りたい」とのお話を頂きました。

本会としても、実際に起きた大規模災害に向け、柔道整復師としての役割、必要性について、改めて再認識した一日がありました。



# タイミング

山梨県柔道整復師会 理事 上田 昭仁

この仕事を始めた当初、患者さんからこれ(この疾患)は温めたほうが良いのか?どんどん動かしたほうが良いのか?「近所の人は、『どんどん温めて動かさないと固まってしまうよ』と言っているんだけど」と、情報源も教えてくれる事が多々ありました。田舎特有の考えなのか分かりませんが、こちらでは、どんどん動かす方が良いという考えが、一般的に浸透しているのです。代表的な疾患として肩関節周囲炎(五十肩)等。してその答えはと言うと、「はずれではないが当たりでもない」というところです。要は順序なのです。怪我をしたりした時に、まずしなければいけないのは、炎症をとることが先決なのです。動かす、温める「タイミング」は、その後の炎症の具合で開始していきます。

ここでその「タイミング」を間違ってしまうと、結果、長引いてしまったりしてしまいます。近所で行き交っている、いわゆる民間療法的なものも、かつてはとても役に立ち、今も尚、皆さん的生活に浸透しているものですから、この「タイミング」を各種医療機関等で相談し、正しい順序(タイミング)で使用して行ければ良いのではないかと思う今日この頃です。

## 第9回甲州フルーツマラソン大会 コンディショニング・ケア活動

平成30年10月21日(日)清々しい秋晴れのなか、甲州市勝沼中央公園を主会場に表記大会が開催。3794名のランナーが参加され盛況のうちに閉会されました。

本会より、大野進会員、大澤正英会員、土橋駿会員、渡辺直也会員また、山本啓示会員の施術所に勤務されている、柔道整復師の先生にご協力頂き、ランナーのコンディショニング・ケア(167名のケアに携わる)のボランティア活動を行いました。



# 第27回日整全国少年柔道大会 第8回日整全国少年柔道形競技会 第42回日整全国柔道大会

平成30年10月7日(日)東京都文京区講道館にて表記大会が開催されました。少年柔道大会は山梨県より選抜した選手がエントリー。初戦、強豪北海道チームと対戦。善戦するも1-3にて敗退しましたが、内容は非常に拮抗しており、山梨県の小学生のレベルが向上していることを再確認しました。トーナメントを制したのは兵庫県チームでした。(北海道チームはベスト8進出)

少年柔道形競技会は、有段者に勝るとも劣らない素晴らしい演武を披露する競技者の中、兵庫県チームが優勝でした。本県代表の孝道塾も、素晴らしい演武を披露いたしましたが、惜しくも決勝進出はありませんでした。

来年度も、山梨県に出場権があり、県下少年柔道形競技会を開催し予選を行う予定であります。県内の少年柔道指導者の皆様はご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

日整全国柔道大会は、初戦、南関東Aと対戦。結果、チームは1-2で敗退。近畿チームがトーナメントを勝ち上がり優勝いたしました。

また、渡辺易彦会員には、少年大会から会員大会まで1日過密なスケジュールの中、審判員を務めて頂き、誠にありがとうございました。

